

東洋大学 機械工学科同窓会会報

機械工学科同窓会ホームページ <http://www.toyomec.jp/>

第14号
平成27年
10月1日号

作成
機械工学科同窓会

今号から機械工学科同窓会会報は、同窓会ホームページからの閲覧として郵送いたしません。
同窓会ホームページよりご確認ください。

機械工学科同窓会主催イベント「同窓生と在学生の懇談会」

機械工学科同窓会は、機械工学科の教員と連携し在校生と連帯を深める活動として在校生に対して就職後の体験談を伝える懇談会を6月と11月に開催しました。

懇談会の模様は、理工学部機械工学科のホームページにも掲載されています。

●2014年度懇談会(第1回 6月21日開催 2号館1階 2104教室 13時30分～14時45分)

6月21日(土)に平成26年度機械工学科同窓会総会が開催されました。この機会に来校された同窓生と在学生の懇談会を開催し、同窓生、在学生会合わせて約40名が参加しました。

機械工学科同窓生の方々が、どのような仕事をしているのか、仕事の中で感じたことや大学時代に学んだこととの関係、在学生会に向けてのメッセージなどを話してくれました。

先輩方の体験にもとづいた話を在学生会達は真剣に聴いていました。

理工学部機械工学科ホームページ <http://www.toyo.ac.jp/site/dmec/51111.html>

●2014年度懇談会(第2回 11月2日開催)

川越キャンパスで毎年開催される学園祭(こもれび祭)にあわせて11月2日(日)に機械工学科8期同窓生による懇談会を開催致しました。懇談会には、機械工学科8期生27人、在校生15人に参加して頂きました。

席上、同窓生の方々から、企業で数々のプロジェクトに参加して様々な技術を独学した体験談や、技術者から出世して管理職となって銀行と折衝した体験談など、大学で学んだことを基礎としてさらに様々な知識やスキルを修得していかなければならない、という実体験をお話頂きました。

また、海外に赴任された同窓生の方々からは、技術をちゃんと理解していれば、その技術をベースに日常会話レベルの英語でも海外の技術者と理解を深めることができた体験談や、海外赴任から帰ってきたとき、自分が開発に携わった生産システムが工場から無くなっていた体験を通して、技術の進歩は早いので常に新しい技術を学ぶ必要があるという教訓をお話頂きました。

在校生からの「どのような技術を独学されたのですか?」という質問に対し、同窓生からは「本当に色々勉強したので、どの技術を勉強したとは言えませんが、当時はまだ教科書になっていないような最新の技術なども色々独学しました」と回答を頂きました。

約1時間の懇談会でしたが、同窓生の方々からは大学では学ぶことのできない貴重な実体験をお話頂き、非常に中身の濃い懇談会となりました。

お忙しい中、在校生のために懇談会にご参加頂いた機械工学科同窓生の方々には、この場を借りて御礼申し上げます。

理工学部機械工学科ホームページ <http://www.toyo.ac.jp/site/dmec/58394.html>



第1回懇談会の模様



第2回懇談会の模様

機械工学科主催イベント「山車ロボットコンテスト」

2014年11月2日に川越キャンパス「こもれび祭」の開催期間に合わせて「山車ロボットコンテスト」を開催いたしました。このロボットコンテストは機械工学科の教員で構成する実行委員会が主催・運営しており、今年で9回目の開催となります。今年は東洋大学機械工学科の製図室が会場でした。参加した高校生22名は本番ギリギリまで頑張っておロボットの調整をし、真剣に競技に取り組んでいました。

高校生達がお作った合計12台のロボットが競技、団体演技に挑み、技術と芸術性を競いました。競技のルールや結果、競技写真などの詳細は下記ページをご覧ください。

理工学部機械工学科ホームページ <http://www.toyo.ac.jp/site/dmec/58242.html>



機械工学科卒業生 秋元俊成先生（日本工業大学）による「ロボット技術の医療・福祉応用」ご講演

平成25年12月7日（土）、工業技術研究所と連合育成会の共催で講演会を開催しました。

一般の方々から企業関係者、卒業生、学生と幅広くご参加頂きました。

第1部で本学工学部機械工学科の卒業生で、現在、日本工業大学助教の秋元俊成先生が「ロボット技術の医療・福祉応用」を講演いたしました。第2部では、理工学部生体医工学科教授の望月修先生が「日本人選手がオリンピックで金メダルを取るための秘策」と題して講演を行いました。



工業技術研究所、連合育成会共催講演会にて
「ロボット技術の医療・福祉応用」

秋元 俊成（機械工学科 平成15年卒業：日本工業大学 助教）

1. はじめに

平成25年12月7日（土）に行われた、工業技術研究所、連合育成会共催講演会にて講演を行わせていただいた内容を紹介させていただこうと思います。

この講演会は、一般の人を対象にした講演会ということですが、正直に言いますと大失敗でした。

というのも、工業技術研究所の所長として恩師の松元先生がいて、講演会のもう一人の講演者が学生時代にお世話になった望月先生で、機械工学科の同窓会のイベントならとお世話になった先生方がたくさん見

きてしまったためです

こんなにやりづらい講演会、はじめてでした。

事務局にお願いして講演会の順番は、せめて望月先生の前にもらって、前座を務める形にしてみました。

講演の内容は、自己紹介からはじめて、東洋大学で経験してきたことを紹介し、その後、今行っている研究や講義の内容を紹介しながらロボット技術の医療・福祉応用について話をさせていただきました。

以下にその内容の一部を紹介させていただきます。

2. 自己紹介

私は、平成11年に東洋大学の機械工学科に入学し、平成15年度に卒業、その後大学院に進学すると共にアデプトジャパン株式会社に入社しました。

この会社は、松元先生に紹介されてインターンシップ(当時は別名称でしたが)で行った産業用のロボットメーカーで、博士課程に進学するまでロボット開発を行わせていただきました。この時、機械の設計から電気部品の選定や装置を動作させるプログラムの開発など、様々な経験をさせていただきました。

3. はじめて作ったロボット

高校生の時には、何事にもあまりやる気がなかったのですが、大学を選ぶ時に松元先生の研究室の写真に惹かれて東洋大学を選びました。

実際に大学に入学してみると研究室に所属するのは4年生からでした。

当時、早くロボットを作ってみたかった私は松元先生に協力していただき、同級生の仲間たちとロボット研究会を作り、ロボットを作ることにしました。

作りはじめた当時は本当に何も知らず、お金もなく、そんな中でも必死に作っていたことを今回の講演で振り返る事で思い出しました。

下の写真がはじめてロボットを作っている時の写真ですが、お金がなかったので足は木で作り、カバーは厚紙にスプレーして作りました。

大会では、足は折れてしまうし、紙は破れてしまうので散々でしたが、作る事自体が非常に楽しかった為、やめることができずに今に至ってしまいました。(当たり前ですが、今ならもっとうまく作れるのにと感じてしまいます。)



図1 ロボット研究会ではじめてロボットを作る

4. 大学での研究など

4年生(3年秋)で研究室に配属されてからは、入学時にやりたいと思っていた「RoboCup」というロボットサッカーの大会に参加させてもらいました。

この大会にはいろんな部門があるのですが、50cmぐらいのロボットを作る中型リーグに参加していました。

結果として、大学院時代にアメリカ大会やドイツ大会まで参加させてもらえ、それなりの成果を残せたかと思います。

今、教員の立場になって考えると、非常に大変な事を松元先生にさせていただいていたとわかりました。

当時の私は、松元先生があまりサポートしてくれないように感じていた部分もありましたが、むしろ大変な作業は松元先生がやってくれていた為、その内容に気がついてすらおらず、ロボットを作ることを考えることができたのだと改めて感じる事ができました。

大学では、RoboCupの他に受動歩行の研究を行いました。受動歩行はエネルギー供給無しに歩行を行う事で、坂道を歩き下るおもちゃによく使われる歩行方法です。これに、少しだけエネルギーを供給し平面歩行を実現させる準受動歩行が私の博士論文の研究テーマでした。

この時、比較の対象として人の歩行を解析し、また、応用として歩行補助装具にも関わったことが今の研究・教育につながっていると思います。

5. 医療ロボットといえば

医療ロボットと検索すると、一番が見つかるのが内視鏡手術支援ロボットの「da Vinci」(Intuitive surgical社)です。このロボットのいいところは、

- 1.操作型である
- 2.高性能3D画像表示
- 3.操作性が良い
- 4.生理的振動抑制
- 5.Motion Scaling機能
- 6.シミュレーターによるトレーニングが可能

と、色々ありますが、一番重要な点は「ロボットが自律的に動作することはない」という点であると感じています。

通常、一般の人がロボットと言われて考えるイメージのロボットは自律的に動くものだと思いますが、この手術ロボットは勝手に動くことはありません。

(人によってはこんなロボットじゃないと言うでしょうが、ロボットの明確な定義は実はありません)

なぜ、自律的に動かない事が重要かと言いますと、そのロボットを使って事故が起きた時の責任の所在です。ロボットが自律的に動いてしまうと、その動作を作成したロボットメーカーやプログラムの責任になりますが、手動で動いている限りその責任は医師にある。という事ができます。

実際にda Vinciを利用した死亡事故は起きていますが、da Vinciの問題というよりは利用方法に問題があった。という点も指摘されているため、メーカーの責任は軽減されているように思います。

今、自動運転の自動車も開発され始めていますが、これも同様に事故が起きた際の責任の所在が今後問題になってくるだろうと言われていました。

ロボットという名称では無いにしてもロボットの技術を利用して医療に利用されているものは他にも数多くあります。例えば、

- ・パルスオキシメーター:血中の酸素飽和度を計測し、呼吸がしっかりできているか確認する装置
- ・CTスキャナ:X線を利用して計測していますが、装置の中でX線発生装置を回転させていたりします。
- ・MRI:磁気共鳴を利用して体内を撮影する装置。
- ・超音波画像診断装置:妊婦さんがよく使う、体内を音の反射と減衰を利用して可視化する装置

など、基本的に医療機とロボットは名称の違いはありますが、技術的にはほとんど変わらない事がわかります。

6. 医療分野で必要とされているロボット

どの分野でもほとんど同じかもしれませんが、医療分野においてロボット化に求めている事は、

- ・不可能を可能にする
- ・早期発見
- ・ミスの低減

の3点が特に求められているように感じています。

特に、「不可能を可能にする」というのは、例えば、外科手術で言えば、小さすぎて人間にはできない手術をサポートすることや、da Vinciのようにできるだけ傷をつけずに手術すること。で、機械的な技術としては比較的難しい事を手術等に応用してする分野。

「早期発見」は、新たな人の計測方法やデータ解析手法を開発することで、これまで見つけることができなかった早期の段階での発見を実現してほしいという内容。

「ミスの低減」はロボットの認識技術やデータ管理を利用して、間違った投薬や、経過観察をある程度自動化することで、簡単な見落としなどを減らそうという内容。

これらの中で、早期発見は技術的に難しいため、我々のような大学が研究をすべき分野なのだと思いますが、ミスの低減や小さい範囲の手術などはコストや手間などが天秤にかけられながら自然と商品化が進んで行くと思います。

7. 福祉分野で求められているロボット

福祉分野では、医療分野と違いまだまだロボットの要素が実際に使われている事を目にする機会が少ないです。ただ、電動車椅子はロボット技術を利用したものであるとして圧倒的に広まっていると感じています。

福祉の分野は医療分野と異なり、それぞれが個人向けのものになってしまうので、長時間利用する車椅子を除き、お金をかける事ができないというのが現実でしょう。

確かに、こんなロボットがあつたらいいのといった意見を耳にしますが、それなら数百万円ですが必要ですか？と聞き返せば、そんなに高いなら必要ないといった返事が返ってきます。

医療分野であれば、1億円だけ命が助かります。と言われれば、買う人もいるのでしょうか、福祉の分野だと、500万円で介護者の腰痛予防ができます。といったところで買う人は少ないでしょう。

ただし、ロボットの研究者がやることがないかというとなんか事はありません。

すでに色々ありますが、入浴などの日常生活の動作をサポートする装置を安く開発できれば、実際に使ってもらえるのかもしれない。

(ただ、それが難しいのですけれど。)

8. ロボットのダメなところ

医療や福祉の分野で新たなものを開発するためには、どちらにしてもロボットの長所と短所をしっかりと把握する必要があります。そこで、少しだけロボットのダメな所を紹介していきます。

・認識力

ロボットの認識力は現状ではまだまだ人間の認識力には及びません。参考にいちごとトマトを区別する事を考えます。

「赤い色で丸いのがトマトで三角っぽいのがいちご」ではロボットは違いがわかりません。

「つぶつぶがついているのがいちご」でも、汚れとつぶつぶの違いがわかりません。

いちごとトマトの比較だけをしっかりと作りこめば、識別することが可能になるのかもしれませんが、それだけでは何の役にも立ちません。

認識力



図2 いちごとトマトは何が違うか

・安全性

ロボットの動作を考える際に必ず必要になるのがその安全性の考慮です。基本的に産業用のロボットは電源が入った状態では、人に触れることが無いように柵で覆われた状態で動作させています。

その点、医療や福祉の分野では人に触れる形で動作させる必要があるロボットがほとんどです。医療分野では、自律動作でない限り医師や専門技師による操作に制限することが可能ですが、福祉の分野では操縦者を有資格者に限る等の制限は困難で、ロボット側で安全を確保する必要があります。

ロボットで人を持ち上げる力を出力できるようにして、なおかつ指などを挟んでも怪我をしないようにすることは非常に難しい問題です。エレベーターやエスカレーターは実現できているので、不可能だとは言いません。

・価格

ロボットの価格は、ある程度大量生産された状態でもモーター1つで約10万円はかかると言われています。

実際にはモーターのサイズや制御方式にもよりますがそのぐらいの価格は覚悟する必要があるということです。この上、医療機器には医療認可を取る必要があるためもっと費用がかかります。

9. ロボットのいいところ

当然ロボットには悪いところだけではなく、良い点もたくさんあります。大きな利点をあげると、

1. 怪力
2. 高速処理
3. 記憶力
4. 微細な動作
5. 不満を言わない
6. 数値化できる

怪力である点は安全性を考えると欠点でもあるのですが、人間には持ち上げることができなかつたりするものを持ち上げたり、破壊したりすることは得意なので、そこをうまく活用することが大切です。

認識能力自体は低いですが、その判断は非常に早く行うことができます。例えば、撮影したものが赤いか青いかぐらいの比較なら、100分の3秒以内には簡単に行うことができます。一度覚えた情報を忘れてしまうことは、装置が壊れない限りはないし、人間の目には見えない精度での動作も可能です。当然、同じ動作を繰り返していても不満を言うこともありません。色々なものを数値化できることでわかってくることもたくさんあります。

以上のように、現状のロボット技術には得意、不得意があり、それを理解した上での開発が重要になっています。

10. 開発中の装置紹介

現在、研究として開発を行っている「側弯症計測システム」についても紹介させていただきました。

この内容は「Kinect for Windows Contest 2012」でグランプリを受賞した関係で、図入りでネットなどに色々情報が載っていますので、興味がありましたら調べていただければと思います。

11. おわりに

今回は、連合育成会の側の講演者として話をさせていただきましたが、こういった内容の話を恩師の松元先生や機械工学科の先生方の前で話するのは非常に緊張すると共に恥ずかしかったのですが、終わった後に、先生方に褒めていただきお世辞だとわかっていても非常に嬉しかったです。

また、東洋大学の学生や卒業生の為になるような事ができればと思います。

秋元 俊成

平成26年度機械工学科同窓会総会報告

平成26年6月21日(土)に川越キャンパス 2104教室(2号館1階)にて平成26年度機械工学科同窓会総会を開催し下記の①～④の議事内容について議決いたしました。

① 活動方針(案) ② 平成25年度会計報告及び平成26年度予算案 ③ 役員体制 ④ 会則改定
平成26年度の活動方針案及び役員体制は以下の通りです。また会則については機械工学科同窓会のホームページに掲載いたします。

●平成26年度活動方針

- 1) 機械工学同窓会会報の継続的な発行
大学、卒業生、在校生の状況を情報誌として継続的に発行する。発行回数は年1回とする。
経済面を重視して同窓会会報(14号)の発行形態を変更する。同窓会ホームページを外部サーバーへ開設し会報を電子配布することで印刷費、郵送費を低減する。
- 2) 同期会の開催へ呼びかけとその援助の実施
人生の節目を迎えた期の同期会開催、および卒業後5年、10年、15年目を期に同期会の開催などを積極的に呼びかけるとともに費用の一部を援助する。
節目として、8期(年金年齢65歳到達)、12期(還暦)へ呼びかける。
具体的活動:担当幹事を中心に会報などでPR活動を行い開催の促進をはかる。
- 3) 川越キャンパス育成会活動へのサポート
育成会活動へのサポートを通じて各同窓会共通の問題点を大学側と協議し同窓会の活動の活性化を図る。
- 4) 会費納入キャンペーン
新卒の入会者50人以上を目標とする。このための対策として
① 在校生との懇談会を持つ。テーマを考える。
② 入会金の徴収方法を検討するが、研究室向け説明会は継続開催する。
- 5) 同窓会のホームページを作成
同窓会報発行の基盤となる同窓会ホームページの新設を行う。
機械工学同窓会ホームページ(外部サーバー)を開設し学科ホームページとリンクための予算処置を行う。

年間スケジュール

- 5月18日第1回 幹事会(年間活動方針・総会準備)
- 5月下旬会報の発行
- 6月5日学科長・育成会懇談会へ参加
- 6月7日育成会代議委員会
- 6月21日同窓会総会・川越キャンパスホームカミングデー・在校生懇談会(3～4年)
- 9月20日卒業式(新卒者の会費徴収)
- 11月2～3日育成会同窓会ブース(こもれび祭11/2)・在校生懇談会
- 11～12月研究室(在校生)との懇談会
- 1月末第3回幹事会&新年会(会報の準備)
- 3月23日卒業式(新卒者の会費徴収)

平成26年度 機械工学科同窓会役員体制

役職	氏名	卒業年度	担当	備考
会長	田口 正和	S46 (8期)		兼育成会代議員(理事、財務総務委員会委員)
副会長	神田 雄一	S43 (5期)		兼育成会代議員(卒業生支援委員会委員)
総務	清澤 文彌太	S39 (1期)	総括担当	
総務	小山 貴士	S55 (16期)	総会・幹事会担当	兼育成会代議員
総務	石井 正明	S46 (8期)	総会・幹事会担当	
総務	福田 善守	S50 (11期)	イベント企画担当	兼育成会幹事(会計監査)
総務	秋元 俊成	H15 (39期)	新入会員担当	兼育成会在学生支援委員会委員
総務	石本 宗久	S62 (23期)	会報、HP担当	兼育成会広報委員会委員
会計	小林 康男	S42 (3期)		
監査	古屋 輝夫	S54 (15期)		
相談役	太田 和彦	S39 (1期)		
無任所幹事	久住 宏	S43 (4期)		兼育成会代議員
	新村 二郎	S45 (6期)		育成会代議員(副会長、情報管理委員会委員)

理工学部近況

●平成26年度卒業式、卒業証書・学位記授与式

平成26年度3月卒業の卒業式・学位記授与式が平成26年3月23日に北の丸公園の日本武道館において大学全体の式として行われました。3月卒業生は、全学(1,2部、通信、大学院,法科大学院)で6181名、理工学部は700名、工学部は10名でした。

そのうち、機械工学科卒業生134名に卒業証書・学位記が授与されました。また、大学院工学研究科は機能システム専攻前期課程22名が修了しました。午後3時から、理工学部卒業生は川越キャンパスに集合し、学科別に卒業証書・学位記授与式が行われました。

機械工学科では、松元学科長より直接卒業証書・学位記とJABEE修了証を手渡され、卒業の喜びとともに社会に出る心構えを新たにしました。

その後、各優秀賞の表彰があり、校友会奨励賞は3月20日に白山キャンパスにおいて山川徹君に羽島校友会会長から授与されたことが報告されました。

続いて日本機械学会畠山賞が清水琢磨君に学科主任の松元明弘教授から授与された後、川越キャンパス連合育成会卒業研究優秀賞が機械工学科同窓会田口会長から濱野透君に授与されました。合わせて今年度より創設された機械工学科奨励賞に、高柳雄汰、大竹翼、新井潤也、荏原健太、戸谷直人の各君に贈られました。その後、機械工学科同窓会田口会長より卒業生に向けて餞の言葉を頂きました。

機械工学科卒業生の就職率は98%で全学の就職率より高い結果となりました。

今年の理工系ブームによるものでしょう。引続き卒業生の皆様の就職支援をお願いいたします。

●平成27年度入試状況

平成27年度の機械工学科の入学試験は、平成26年11月から付属高校、指定校、運動選手などの推薦入試から始まり、平成26年3月の3月入試で全ての入試が終了しました。

付属、推薦を除いた機械工学科の志願者数は、2357名で前年度より増加しました。全学的にも志願者数は史上最大8万5千名を上回る結果となりました。

本学のプレゼンスが向上したためでしょうか、最終的な機械工学科の入学者数は以下のとおりでした。

- ・付属、指定校推薦、学校推薦:45名
- ・一般入試(A1,A2方式、B方式他):151名

●機械工学科教員消息

《教職員異動》

- 新任 ・新藤 康弘助教(医用工学、リハビリテーション工学)
- 昇格 ・山川 聡子教授
- ・山田 和明准教授

機械工学科教員数:15名

《平成27年度機械工学科教員の主な役割》

- 【全学】 副学長 神田 雄一教授
- 工業技術研究所 所長 松元 明弘教授

- 【機械工学科】 学科長 吉野 隆教授
- 学科幹事 山川 聡子教授
- 教務担当 藤松 信義准教授
- 就職担当 松元 明弘教授、根市 勉講師

●平成27年度9月卒業式

平成27年度9月卒業の卒業式・学位記授与式が平成27年9月19日に川越キャンパスで実施されました。機械工学科の9月卒業生は17名でした。

田口機械工学科同窓会会長が川越キャンパス同窓会連合議長として祝辞を述べられました。

●理工学部長に寺田 信幸教授(生体医工学科)が就任

平成27年4月より寺田信幸教授が真理工学部長に就任されました。

新学部長は、「わくわく感あふれるキャンパスの創成」をスローガンに、理工系グローバル・プロフェッショナル人材を輩出する様々なプログラムをこれから展開していきたいと抱負を述べられました。

早速、2015年11月28日(土)に「理工学部フォーラム2015 ～産学・同窓会をつなぐ架け橋～」として川越キャンパスで開催されます。内容は、教育・研究への取り組み、同窓会の取り組み、産業界からの取り組みについて講演やパネルディスカッションが予定されています。学生による研究発表会も実施されます。

当日はこれに合わせて各学科同窓会総会も開催されますので皆様には是非ご参加をお願いいたします。

●文部科学省 スーパーグローバル大学創成支援事業(タイプB)採択

文部科学省が2014(平成26)年度より実施する「スーパーグローバル大学創成支援 タイプB(グローバル化牽引型)」に、構想名「TOYO GLOBAL DIAMONDS グローバルリーダーの集うアジアのハブ大学を目指して」を申請し、9月26日付で採択を受けました。タイプBの採択校は24校で私立大学は12校で、本学はその一校として採択されました。これにより新たな改革が進みますが、10年後の完成時には素晴らしい大学に生まれ変わることでしょう。詳しくは、下記のURLをご参照ください。

<http://www.toyo.ac.jp/site/gakuhou/59745.html>

八期生(1972年/昭和47年卒)同期会の開催報告

8期(1972年/昭和47年卒)同期会を「こもれび祭(工学祭)」開催に合わせ2014年11月2日に開催しました。卒業後43年を経て初めて川越キャンパスを訪れる人も多く開催場所を設定できず苦労しましたが、開催期日をこもれび祭に設定し、育成会が開催する三遊亭遊喜師匠(東洋大卒)の落語会を目印に集合することとしました。

昔の部活で使用した建物を訪れたり、展示を楽しむなど、開催時間前に川越キャンパスを散策した方々も多くいました。

大多数の人が定年になる65歳を機に発起人と幹事が中心となり、開催内容を郵便で連絡しました。

卒業生は、約170名でしたが連絡を取れたのは107名でした。

郵送連絡から住所提供があり、参加回答を受けたのが34名まで増加しましたが、最終参加は29名でした。年齢ゆえの健康問題も多く、当日の不参加者が2名発生しました。

集合してみると大変楽しく懇談でき久々の旧交を温める良い機会にできました。

ご協力いただいた方々、参加者から一言をいただくと

- ・本当に久しぶりで学校へ来る機会となり良かった。
 - ・校舎など立派になって昔の面影がなかったが良い勉強できる環境になって良かった。
 - ・神田副学長から近況を報告いただき感謝いたします。
- などの言葉がありました。



参加者(順不同、敬称略)

杉山・片岡・寺山・中沢・早川・澤合
吉井・佐藤・加藤・松本・風戸・鈴木
長嶋・小島・久保田・大沢・栗原
永瀬・石井・村上・中田・志村・木村
平山・斎藤・大隅

機械工学科ホームページ「先輩インタビュー」の紹介

東洋大学理工学部機械工学科のホームページにOBインタビューが掲載されています。
<http://www.toyo.ac.jp/site/dmec/52689.html>

第1回(2011年6月)

本学科教授の神田先生と、株式会社タミヤでラジコンコントロールカー(RCカー)の企画と設計をしている高原さんにお話をうかがいました。

東洋大学副学長 機械工学科教授 神田雄一先生(1969年学部卒業(博士))

株式会社タミヤ 企画開発部一課主任 高原大輔さん(1997年学部卒業(修士))

第2回(2014年7月)

本学科の大先輩である一期生の太田さんにお話をうかがいました。

株式会社IHI(石川島播磨重工業)に技術者として入社し、IHI 運搬機械株式会社では事業部長、取締役まで務められました。

ベアーズエンジニアリング株式会社 取締役 太田和彦さん(1965年学部卒業)

第3回(2014年7月)

リクルーターとして本校を訪れた入社二年目の菊池良祐さんに突撃でお話をききました。

三和工機株式会社 メカトロ第五技術部技術一課 菊池良祐さん(2013年学部卒業)

第4回(2015年8月)

入社7年目の若手技術者として自動車部品の設計開発を行っている金子さんにお話をうかがいました。

株式会社マーレフィルターシステムズ テクニカルセンター
第2潤滑・燃料システム設計グループ 金子優二さん(2009年学部卒業)

イベントご案内

・川越キャンパス こもれび祭

11月2日(月) 10時00分-18時00分

11月3日(火・祝) 10時00分-18時00分

同窓連絡協議会及び同窓会連合の共催により同窓生向け喫茶コーナーが開設されます。
また三遊亭遊喜師匠の落語会(11:00～、15:00～)が開催されます。(7号館1階)

・理工学フォーラム2015

日 時:平成27年11月28日(土) 09時15分～15時00分

場 所:2106教室(2号館1階)

内 容:学生による研究発表(午前)と講演会(午後)

・機械工学科同窓会総会

日 時:平成27年11月28日(土) 15時00分～16時15分

場 所:2104教室(2号館1階)

議 題:①平成26年度活動報告及び会計報告 ②平成27年度活動計画(案)及び予算(案) ③その他

編集後記

機械工学科同窓会報14号をお届けします。今号より経費節約のため電子版となりました。

初めての試みなのでまだまだ手探りな部分も多々ありますが東洋大学及び同窓会のホームページとも連動して同窓会の活性化のためとタイムリーな情報発信に勤めてまいります。

(23期 M. I)

東洋大学機械工学科同窓会ホームページ <http://www.toyomec.jp/>